

分科会名 <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 5px 0;">生活科</div> 令和元年6月5日（水）	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; border-bottom: 1px solid black;">会場</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">川崎市立大島小学校</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">助言者</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">川崎市立小学校生活科・総合的な学習の時間 教育研究会副会長 中西 憲子</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">授業者</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">川崎市立大島小学校 田邊 久美子 新藤 佳穂</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">司会者</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">川崎市立小倉小学校 船木 愛</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">記録者</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">川崎市立古川小学校 伊藤 利恵</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">世話人</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">川崎市立大島小学校 浜崎 俊治</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">出席者数</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">131名</td> </tr> </table>	会場	川崎市立大島小学校	助言者	川崎市立小学校生活科・総合的な学習の時間 教育研究会副会長 中西 憲子	授業者	川崎市立大島小学校 田邊 久美子 新藤 佳穂	司会者	川崎市立小倉小学校 船木 愛	記録者	川崎市立古川小学校 伊藤 利恵	世話人	川崎市立大島小学校 浜崎 俊治	出席者数	131名
会場	川崎市立大島小学校														
助言者	川崎市立小学校生活科・総合的な学習の時間 教育研究会副会長 中西 憲子														
授業者	川崎市立大島小学校 田邊 久美子 新藤 佳穂														
司会者	川崎市立小倉小学校 船木 愛														
記録者	川崎市立古川小学校 伊藤 利恵														
世話人	川崎市立大島小学校 浜崎 俊治														
出席者数	131名														

1 提案の概要

「どきどきわくわくおおしまししょうがっこう」

「学校の施設や、学校の中にいる人々と繰り返しかかわる活動を通して、学校を支えている施設や人、友だちのことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるとともに、学校での自分の生活を豊かに広げることができるようにする。」という単元目標で行われた。学校の中の様々な学年の学習の様子を見るなど、人々と繰り返し関わり、情報や思いを共有しながら学習を進めていた。本時の学習は、3年生の学習の様子を見に行き、気付いたことなどを共有する活動を通して、もっと学校の中にいる人や施設に関心をもち、かかわろうとすることを目標としていた。

2 研究協議の概要

- ・ ワークシートの記入内容から、子どもたちの意欲が感じられた。
- ・ 幼児教育で育まれた力を発揮させるような連携がしっかりとされていて、スタートカリキュラムができていた。
- ・ 1年生の活動を全職員で共有することができていた。
- ・ 1年生の学校探検の内容を校内全体で共有していて、学校全体でカリキュラムづくりをしていた。
- ・ 多様な人々と触れ合うことができるように単元がつくられていた。
- ・ 体験と活動の相互作用を大切に単元がつくられていた。
- ・ 幼児教育との連携がされていた。

3 今後の課題

- ・ 気づきの質を高めるために、子どもにどのような姿になってほしいのかイメージをしながら単元をつくっていくことが大切だ。
- ・ 同じことの繰り返しでは、質が高まらないため体験と表現が相互作用するように次の探検へいくときに子どもに何に気づいてほしいのか体験したことの表現する場面で教師がしっかりと見取ることが大切だ。

4 石井指導主事より

- ・ 大島小学校の生活科の単元は、多様な人々と触れ合うことができるようになっていた。
- ・ 多様な方法により表現し、考えることができるようになっていた。
- ・ 幼児教育ではぐくまれた力を発揮できるような単元デザインであることが大切だ。（スタートカリキュラム）